

ユーザー

訪問

トランコム（本社・名古屋市中、神野裕弘社長）は、トレーラーの安全対策に力を入れている。ドライバーへの安全指導を強めるとともに、一部営業所で東海クラリオン（同・名古屋市中、安部源太郎代表取締役）の巻き込み事故縮減カメラシステム「A・CAM（エーカム）」を活用。目視では確認し切れない死角の可視化で、左折時の巻き込み事故予防につながっている。

トランコム

トレーラー乗務に安心感

左折巻き込み予防で効果

り、左側を通る自動車や歩行者を巻き込む恐れが大きくなる。特に後方は運転席から目視がしづらく、ドライバーの安全確認だけでは限界がある。そこで、ドライバー自身が確認を徹底しつつ、巻き込みのリスクを軽減できる安全装置として東海クラリオンのエーカムを導入。導入に携わったトランコムの犬飼純也トランスポートグループ・A・RE・Aマネージャーは「ドライバー自身の安全意識をより高められるとの狙いも込めた」と話す。

エーカムは、A・I搭載の高精度カメラで車両左側方の人や自転車などを検知し、信号とブザー音でドライバー

に警告。オプションのモニターを装備すれば、ミラーでは見づらな範囲も確認できる。

雨天時や夜間も鮮明に検知

トランコムTSでは、袋井営業所（静岡県袋井市）、棚倉営業所（福島県棚倉町）が保有するトレーラーヘッドの一部にエーカムを導入。主に衛生用品の幹線輸送を手掛ける棚倉営業所では、トレーラーヘッド13台のうち2台に取り入れ、左

折時巻き込みの確実な予防につながっている。特に市街地での左折時は死角が多く、左側を擦り抜けようとする自転車やバイクもいて、ドライバーは神経をすり減らして運転していた。導入後は「ドライバーの安心感が増した」と柳田和樹棚倉営業所長。ビラーに付けた信号の点灯とブザー音による警告で心理的な負担が軽減されたという。

さらに自転車や歩行者の事前検知でヒヤリ



車載のモニターで死角に入った歩行者や自転車を検知。ドライバーの視野を拡張してくれる

ハットが減り、ドライバー自身の運転の癖や死角に対する意識も向上。ドライバーの佐々木広光さんは「直進時もある範囲が広がった。視界が悪い雨天時や夜間もモニターが広範囲を鮮明に映すため、運転に集中できるようになった」と話す。柳田所長は、エーカムの活用で巻き込み事故を予防できれば、1台当たりの導入費は十分に回収できるとし「安全と安心に対する価値のある投資」と話す。12月に納車されるトレーラーヘッド2台にもエーカムを導入し、既存車両への設置も広げていく方針だ。

導入の効果はグループ間でも共有し、横展開を図る考え。トランコムの犬飼マネージャーは「安全指導を軸にエーカムなど機器の活用も進めながら、グループ全体で安全意識の高いドライバー集団を目指したい」と話す。